

たしくみ・しかけの構築，若手技術者・研究者を含む産官学民の社会におけるそれぞれの役割の再定式化の必要性，世代間公平性等について議論した。他方で，市民参加や仕組みといった手法や場の重要性を認識しつつも，最終的には我々が望む社会のあり方や，どのような社会に生きることを希求するか，といったビジョンや理念を協働で創り上げるとともに，順応的にそれを調整・修正しながらコミュニティ構成員が共有することの大切さを改めて認識するに至った。

本報告では，これらの課題・視点を含め，社会的・経済的・環境的に現在の世代，そして未来の世代に対して明るい将来像の提言を試みた。

キーワード：都市インフラ，持続可能性，コミュニティ，賢明な縮退，世代間公平性

### チーム3 異分野の協働・合意形成

## 異分野協働による地域水循環システムとその実現に向けた段階的アプローチ

メンバー：安達 美総<sup>1)</sup>，窪岡 史章<sup>2)</sup>，小山 徹也<sup>3)</sup>，佐藤 祐一<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> ㈱東芝（〒531-6126 大阪市北区大淀中1-1-30 E-mail: yoshifusa.adachi@toshiba.co.jp）

<sup>2)</sup> 日新電機㈱（〒615-8686 京都市右京区梅津高畝町47 E-mail: Kubooka\_Fumiaki@nissin.co.jp）

<sup>3)</sup> ㈱神鋼環境ソリューション（〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4-78 E-mail: tt.koyama@kobelco-eco.co.jp）

<sup>4)</sup> 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター（〒520-0022 大津市柳が崎5-34 E-mail: sato-y@lberi.jp）

**要旨：**経済，防災，環境保全等の観点から，用途に応じて再生水や雨水を積極的に活用することが望まれている。近年では，エコロジーという価値観に基づく市民や企業の経済活動が拡大を続けており，今後のさらなる人々の意識の転換も見据えた新たな水循環のあり方を模索することが必要である。

本論文では，地域社会を構成する市民，企業，自治体らが協働しつつ，生活排水の再利用や雨水利用，し尿の農地還元，業種別の工業用水など，量と質の異なる水需給を地域の特性に応じて橋渡しする地域水循環システムと，その実現に向けた段階的アプローチを提案する。